岩盤ボーリング柱状図

調査名　一般県道　竹原吉名線　道路改良事業に伴う業務委託

事業・工事名

調査目的及び調査対象　道路　掘削・掘削のり面

ボーリング名	B-3	調査位置	竹原市吉名町掛之浦	北緯	34° 19′ 14.2868″
発注機関	広島県西部建設事務所東広島支所	調査期間	令和3年 1月 7日～ 令和3年 1月 7日	東経	132° 52′ 27.4490″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 38.95m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 270°西 90°東 180°南
総削孔長	10.00m	地盤勾配	19° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D1-D / エンジン：ヤンマーNS110 / ポンプ：東邦BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事
1			SF	砂質土	茶褐							微細砂を主体とし、粘性土分を多く含む。 GL-1.5～1.6m付近に径20～50mmの角礫を混入する。
2	36.25	2.70										
3			RtA	流紋岩質凝灰岩	淡緑灰	w5	h4	E	VI	d	D	高田流紋岩類。 岩組織は認められるが、指圧により容易に粉砕され、シルト質細砂～中砂状を呈する。 部分的にシルト状を呈する。 GL-6.90～7.25m付近に脆い部分が認められる。 岩級区分：DL（砂質土）
4												
5												
6												
7	31.70	7.25										
8			RtA	流紋岩質凝灰岩	暗緑灰	w5	h4	E	VI	d	D	高田流紋岩類。 GL-8.0m付近まで指圧で容易に砕け、シルト混じり細～粗砂状を呈する。 GL-8.0～8.8mは下位に従い粒子がやや硬質となり、シルト混じり中砂～細礫状を呈する。 GL-8.8m以深は亀裂が明瞭となり、概ねやや硬質な細礫状を呈する。亀裂面は褐色を帯びる。 部分的に短柱状を呈するが、脆くハンマー打撃により容易に砕ける。 GL-8.8～9.3m付近はやや硬質な細礫状を呈する。 岩級区分：DH（軟岩I）
9												
10	28.95	10.00										
11												
12												
13												
14												
15												

コア採取率 ×—× (%)　最大コア長 ●—● cm　RQD —— [%]

標準貫入試験 深度－N値図

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
12	1.15	12		
	1.45	300		
15	2.15	15		
	2.45	300		
12	3.15	12		
	3.45	300		
11	4.15	11		
	4.45	300		
17	5.15	17		
	5.45	300		
24	6.15	24		
	6.45	300		
50以上	7.15	50	280	
	7.43	280		
50以上	8.10	50	150	
	8.25	150		
50以上	9.05	50	60	
	9.11	60		
50以上	10.00	50	6	
	10.01	6		

孔内水位／測定月日	原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度（cm／h）	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	削水・送水量（L／min）	排水量（L／min）
		2.15 含水量 粒度	1/7		66／ケーシング	S／MC					
		2.45									
		5.15 含水量 粒度				D／MC					
		5.45									
		8.10 含水量 粒度			66	D／MC					
		8.25				D／DB					